

(4) 学校課題研究計画

1 研究主題

深い学びに導くための指導力の向上をめざして
～ 主体的・対話的な学びを基盤にした授業を生かして～

2 目指す児童の姿

主体的に取り組み、進んで勉強する子ども

3 主題設定の理由

昨年度は、主体的に取り組み、互いに表現し学び合う対話的な学習を通して、より深い学びの実現を目指した授業改善について研究を進めてきた。授業形態を工夫したり、児童に考える時間を確保したりすることで、児童が自分の考えをもち、意欲的に学習に取り組めるようになった。しかし、自分の意見や考えを発表できるようになったが、自分の考えを深めたり、さらに新たな気づきをしたりすることは不十分で、深い学びに至ってはいないという課題が浮かび上がった。そもそも、「深い学び」とは何なのか、共通理解して研究を進める必要がある。

今年度は、主体的・対話的な学びをベースに、より深い学びに導くための指導力の向上をめざして、研究していきたい。

4 研究の仮説

- (1) どのような力をつけていくか、そのためにはどんな活動を行って行くかを教師が示し、授業のめあてを児童自身が設定することにより、主体的に学ぶ意欲が高まるであろう。
- (2) 振り返りを行い、「わかった」「できた」を実感させることにより、次の学習へ主体的に取り組む意欲が高まるであろう。
- (3) 望ましい学習習慣を醸成するための共通実践を、家庭との連携を交えながら行うことにより、進んで学習に取り組む児童を育成することができるようになるだろう。

5 研究の内容

(1) 実態把握の取り組みと学業指導

- ①児童の学力・学習状況調査の実施と分析を行う。
- ②学業指導の徹底
- ③基礎・基本の定着を図るための工夫・授業改善
 - ・TTや習熟度別学習等を効果的に取り入れる。
 - ・効果的なドリル学習やプリント学習を計画的に進める。

(2) 学ぶ意欲を高める授業展開の工夫

①「できる・楽しい」授業の研究

- ・ 知的好奇心を喚起する学習課題や日常生活に繋がる学習課題の設定を行う。
- ・ 「協働的に問題解決する」場面を設定する。
- ・ 課題への「見通し」をもたせる工夫をする。
- ・ 児童の思考をゆさぶる発問を工夫する。
- ・ 学ぶ意欲が高まる板書計画を立てる。
- ・ 児童が意欲的に取り組む学習形態を実践する。
- ・ 「まとめ」や「ふりかえり」で自分の学習を確認させる。

②「深い学び」となる授業の工夫

- ・ 「深い学び」について全教職員でしっかりと理解しイメージを共有する。
- ・ 「深い学び」につながる課題設定や思考場面の在り方等について工夫する。

(3) 家庭との連携

①保護者の意識調査の実施と分析

②生活・学習リズムの向上

- ・ 早寝・早起き・朝ごはんの推進を図る。

③家庭学習(自主学習)の向上

- ・ 決まった時間に学習する習慣をつける。(小中連携による家庭学習習慣の実施)

6 研究の方法

(1) 学年の研究テーマを決め、研究を進める。

(2) 校内の授業研究会を実施し、全員で研修を行い、授業力を高める。

(3) 学年またはブロックで教材研究や指導案検討を行い、指導法を研究していく。

(4) レジェンド・マイスター事業の授業等の公開を参観し、指導力向上を図る。